

はじめに

あなたにとって消費税10%は、安いですか？ 高いですか？

統計によって誤差がありますが、約10%というのは全国の学校の教室の中にいると推定される発達障害がある子どもたちの大体の割合です。

特に、知的に高い発達障害がある子どもたちの行き場がなくなっています。日本の子どもたちが、減りつづけて久しいです。ただでさえ少ないのに、そのうちの約10%を本当に切り捨てますか？

私は平成15年4月から令和4年3月まで、東京都の小学校教員をしていました。

そこで、発達障害の子どもたちに出会いました。本当に才能豊かで、魅力的な子どもたちでした。

そして、『どう対応していいかわからない』『何がいけないのかよくわからない』大人にとっての厄介者でした。明治5年以來の日本の輝ける学校教育の伝統と歴史を、彼らはことごとくぶち壊していきま
す。そんなことをされると、本当に大人は困るんです。やめてください。

でも、やめるべきは自分の個性にしたがって伸びようとする子どもたちでしょうか。それとも、明治の富国強兵の理想を礎とする教育システムでしょうか。もういい加減、素晴らしかった明治時代のご祖先様を超えませんか。今は21世紀で、令和の時代です。こんなぐだぐだな子孫の姿なんて、あの激動の時代に近代学校を作り上げたご先祖様たちは見たくないはず。そんな感じで19年の教員人生のうち前半15年くらいは、ずっともやもや怒っていました。

しかし、次第に周囲の大人たちも相当に困っていることが見えてきました。子どもたちへのいじわるな対応は、大人の無知から。サディスティックな指示は、大人の混乱から。子どもたちへの厄介者扱いが変化しないのは大人の恐れから、きていることに気づきました。

今は、地元福岡で「発達障害支援塾こぎと福岡」を立ち上げています。開業前に経営コンサルやマーケティングを勉強しました。すると、発達障害の子どもたちを支援するときに私が大事にしていることとコンサルやマーケットと言われる人たちが主張していることが、かなりの部分で重なってくるのがわかりました。東京都の教員時代に『初めて特別支援教育に携わる新人さんに、どのように伝えるのがいいか』というお題で、平成30年度東京都教育研究員に参加させていただきました。そのときから考えていることが、ここにきてやっと結びつきました。コンサルやマーケティングには、ある

程度確立された手法があります。これを本書で応用してみました。ご理解いただければ、日々の支援が楽になると思います。

ただし、現場の支援者自身が目の前の子どものことを考えまくって、そこで考えた支援を実行していくことは楽ではありません。あくまで、羅針盤を手にする程度の楽さです。熱い気持ちと冷静な頭（思考）を心がけることで、かなり踏み込んだ支援ができるはずです。筋トレと同じで、私たちの支援筋や支援体力（心理師SUMAの造語）を鍛えなくてはいけません。筋肉が裏切らないように、論理的思考も裏切りません。

3日トレーニングをサボると練習効果がチャラになるのも、同じです。大丈夫です。思考トレーニングで死ぬ思いをした人はいても、現実になることはまず、ありません（注…ただし、うつなどの精神疾患を発症した場合は、別です。そんなときは、無理をしてはいけません）。さあ一緒に楽しく、バツキバキになるまで支援筋・支援体力を鍛えていきましょう！